

8月は 人権強調月間

虐待の淵を生き抜いて

人にもモノにも自分にもあたらならない社会を目指して

8月は人権強調月間です。人権について考えるきっかけとして、島田妙子さんから「児童虐待防止」をテーマに寄稿していただきました。
この機会に、皆さんも人権について考えてみましょう。



島田 妙子さん 寄稿

(一財)児童虐待防止機構オレンジCAPO理事長、兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザー、(一社)日本アンガーマネジメント協会認定ファシリテーター。専門分野は、虐待防止、DV防止、自殺防止。

が、2000年代には1割にまで減ったといえます。

アンガーマネジメント

私は1970年代にアメリカではじまったアンガーマネジメント(怒りの感情)をマネジメント(上手に付き合う)するための心理技法を広めています。

このアンガーマネジメントを学ぶことによって、自分自身の怒りを理解し、コントロールしたり、癒したり、ポジティブなものへ変換させたりできるというわけです。

アンガーマネジメントは「怒ることに後悔しない」という意味です。自分自身が変化して、感情をさらに豊かにし、職場や家庭での人間関係に良い循環を生み出すことを目指します。

虐待やいじめ、DVなどは最たるものですが、わたしたちのふつうに見える日常の中にも、ちょっとした機械の連鎖や、怒りの連鎖による人間関係の乱れが起きている、ときには殺人事件にまで発展してしまつたこともあります。ついカッとなつたり、イラッとした時には、人の体の中に「アドレナリン」という怒りのホルモンが分泌されるためです。このアドレナリンを深呼吸でやり過ぎただけでも、怒りは静めることができず、いつも何かに追われていたり、いつも誰かと比べて焦っていたりする人が本当に多いなと感じています。「人にもモノにも、そして自分にもあたらならない」そんな社会になりますように...

平和大使がヒロシマへ



原爆の子の像の前で平和を誓う平和大使(昨年8月6日、広島)

平和大使の中学生らが8月5日(月)、広島平和記念式典(8月6日)に参加するため被爆地「ヒロシマ」に出発します。

平和大使は、市内4中学校から各2人の生徒と市民ら合計11人です。広島平和記念資料館の見学や、被爆者である語り部さんの話を聞く平和学習等をおし、戦争の悲惨さや平和の大切さを学びます。また市民から寄せられた平和の折り鶴を「原爆の子の像」にささげます。

平和大使の広島派遣事業は、八幡市非核平和都市推進協議会(ピース八幡)が市の補助を受けて毎年実施。今年、参加する中学生は次のとおりです。(敬称略・順不同)

- ▽尾崎 響大(男山中2年)、梶塚 混介(同2年)、玉置 桂汰(男山第二2年)、川添 理子(同2年)、武村 亮輝(男山第三2年)、加藤 弘夏(同2年)、岡村 花(男山東2年)、小里 優芽(同2年)

平和を願い黙とう

昭和20年8月6日午前8時15分、広島に原子爆弾が投下され、同日午前11時2分、長崎に原子爆弾が投下されました。終戦から今年で74年。多くの犠牲者のご冥福と世界恒久平和を祈念するため、次の日時に1分間の黙とうをお願いいたします。

- ▽広島被爆の時 8月6日(火) 午前8時15分
- ▽長崎被爆の時 8月9日(金) 午前11時2分
- ▽終戦の日 8月15日(木) 正午

関人権啓発課 (☎981-3127)

私は、小学二年生から中学二年生までの六年間、兄二人と共に、父と父の再婚相手から虐待を受けて育ち、六年間の間に、一度父から殺されそうになりました。四年生の時には風呂水に沈められ、意識が遠のく中、「これで、全てが終わるかもしれない」と感じました。もともと優しくかった父が、暴力をふるう度に、そして暴言を吐き続ける日々の中で、優しくかった父の顔が、どんな鬼のような顔になっていったのです。

もちろん暴力や暴言を受けるのは嫌で仕方ありませんでしたが、大好きだった、そして優しくかった父の人相が、鬼のように変化していくのを見続けている事の方が、何よりも嫌でした。周りには沢山の大人がいましたが、どんなにひどい事をされてい

も、心の奥底で「きつと、優しくしたお父ちゃんに戻ってくれるはず、いつかきつと...」という願いと期待をしている間は、周りの大人にはやっぱり言えず、私が死んだら、父はこれでもう虐待しなくて済むのだと、素直に感じた私でした。

豊かさの逆

豊かになったこの時代に、虐待が増えています。虐待だけでなく、人が人にあたる、モノにあたる、自分にあたるという行為が氾濫しています。なぜ虐待が起るのでしょうか。

なぜ、感情のコントロールが効かなくなっていくのでしょうか。私の父のように、元々優しくかったのに、感情表現にトラブルを起し、自分より弱い立場の人にあたってしまつた人を一人でも救いたいという思いで溢れています。実際に虐待している人に直面したときに、いま私たちにできることのヒントを、私の体験から紹介させていただきます。

感情は「クセ」

感情は「クセ」になっていきます。行動や言動は「クセ」

継母の本心

今から10年ほど前、継母と一緒に食事をした時に、最初に暴力を受けた時の話になりました。継母は涙をこぼしながら「ほんまに叩くつもりなんかなかった、でもついカッとなつて叩いてしまった瞬間、これまで頑張ってきた気持ちが一瞬で壊れてしまったような気がした」と私に言いました。そして叩いた後「さ

法による規定

相次ぐ児童虐待事件を受け、児童虐待防止法改正案などに親の体罰禁止規定が盛り込まれます。(2020年4月施行)

世界では、50カ国以上が子どもへの体罰を禁じています。1979年にいち早く法律で全面禁止したスウェーデンでは、1960年代に親の9割が体罰をしていました

食品ロスの削減にご協力を!

まだ食べられるのに捨てられている食品(食品ロス)が、日本では年間約646万トン、毎日1人当たりお

茶碗約1杯分(約139g)が捨てられています(農林水産省および環境省「平成27年度推計」)。
「①買い物は使う分だけ買う、②食べきれぬ量を作る、③残っている食材から使う」など、食品ロスを削減しましょう。

また、余った食品を必要とする施設や人に届ける社会福祉活動・団体「フードバンク」もありますので、ご協力ください。
※法人がフードバンクに食品等を寄附した場合、税制上の措置が受けられる場合があります。

事業者の皆さんへ

京都府では、食品ロス削減に向けた取り組みを行っている飲食店、小売店を「食べ残しゼロ推進店舗」として認定しています。積極的なご参加をお願いします。

環境業務課 (☎983-5340)